

3. 生きがい・孫との関係についての意識

3-1. 孫とのふれあい

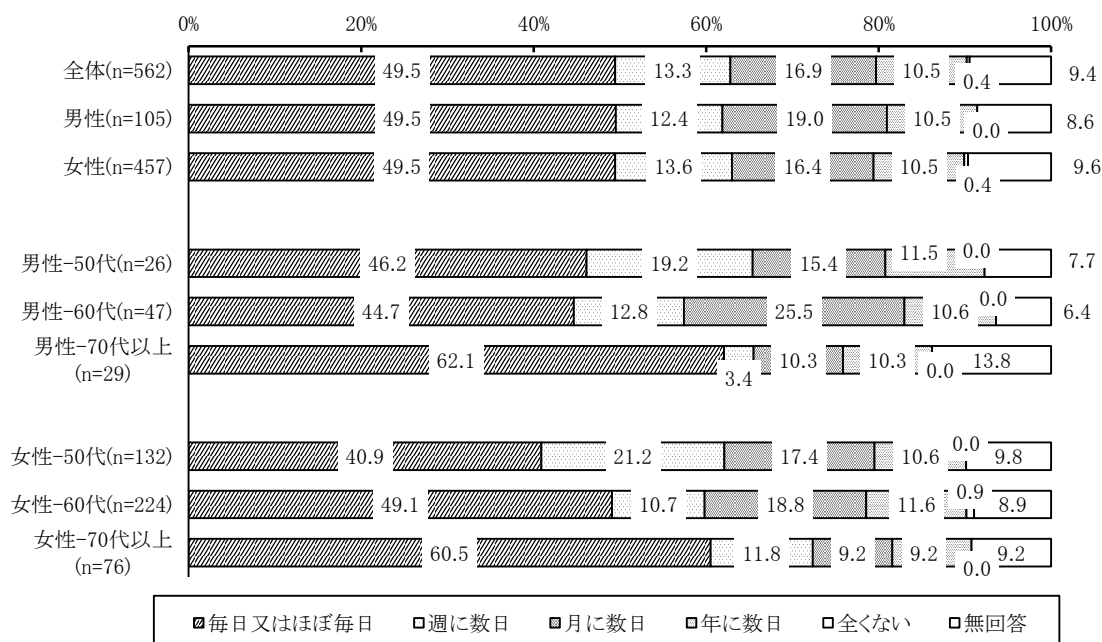
(1) 孫とふれあう頻度 (Q15)

18歳未満の孫がいる562名に、孫とふれあう頻度をたずねたところ、全体では「毎日又はほぼ毎日」が49.5%と半数近くにのぼっている(図表3-1)。

性別にみても男女で大きな差はみられない。

性・年代別では、「毎日又はほぼ毎日」の回答割合が、男性では70代以上が最も高く、女性では年齢が高い人ほど高い。

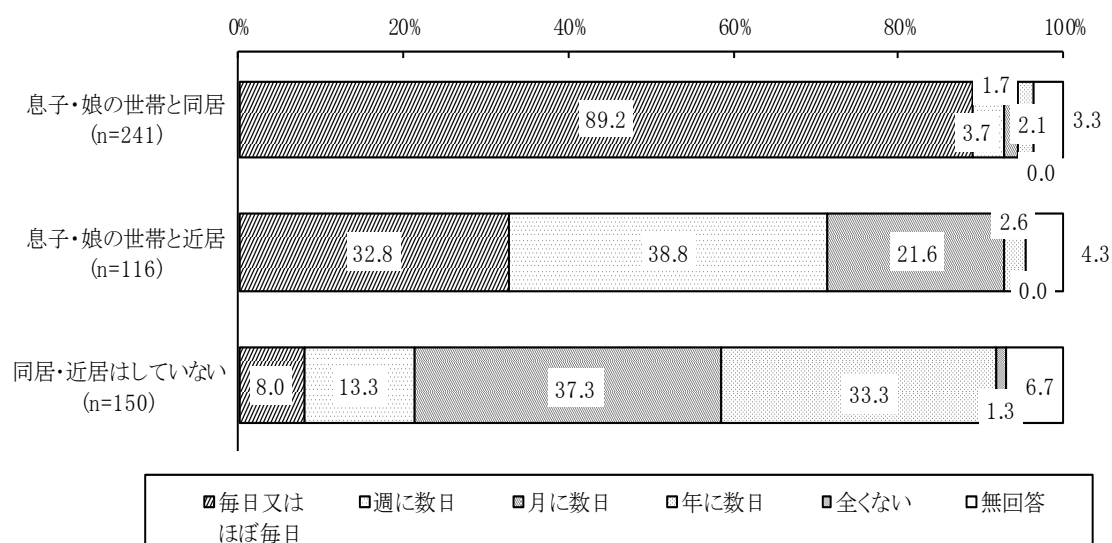
図表3-1 孫とふれあう頻度(全体、性別、性・年代別)



注：回答者は18歳未満の孫がいる人。年代別については40代以下を省略。

子との同居・近居の有無別にみると、「毎日又はほぼ毎日」の回答者は息子・娘の世帯と同居している人で89.2%である(図表3-2)。息子や娘と同居している人では約9割が毎日のように孫とのふれあいがあると回答している。息子や娘の世帯と近居している人では「毎日又はほぼ毎日」が32.8%であり、同居している人に比べ、孫とふれあう頻度は少なくなる。さらに、同居・近居はしていない人では「毎日又はほぼ毎日」が8.0%と少なく、「月に数回」(37.3%)や「年に数回」(33.3%)の割合が3割台となっており、同居や近居をしている人よりも孫とふれあう頻度が低い。

図表 3-2 孫とふれあう頻度（子との同居・近居の有無別）



注：回答者は18歳未満の孫がいる人。近居とは「直線距離で片道おおむね2km以内」。

サンプル数は限られているが、男女ごとに子との同居・近居の有無別にみても、あまり男女で差はみられない（図表3-3）。

図表 3-3 孫とふれあう頻度（性・子との同居・近居の有無別）

（単位：％）

		n	毎日又は ほぼ毎日	週に数日	月に数日	年に数日	全くない	無回答
息子・娘の世帯と同居	男性	45	88.9	4.4	2.2	0.0	0.0	4.4
	女性	196	89.3	3.6	1.5	2.6	0.0	3.1
息子・娘の世帯と近居	男性	18	27.8	33.3	33.3	0.0	0.0	5.6
	女性	98	33.7	39.8	19.4	3.1	0.0	4.1
同居・近居はしていない	男性	35	8.6	14.3	34.3	31.4	0.0	11.4
	女性	115	7.8	13.0	38.3	33.9	1.7	5.2

注：回答者は18歳未満の孫がいる人。近居とは「直線距離で片道おおむね2km以内」。

(2) 孫とのふれあう時間への意識 (Q16)

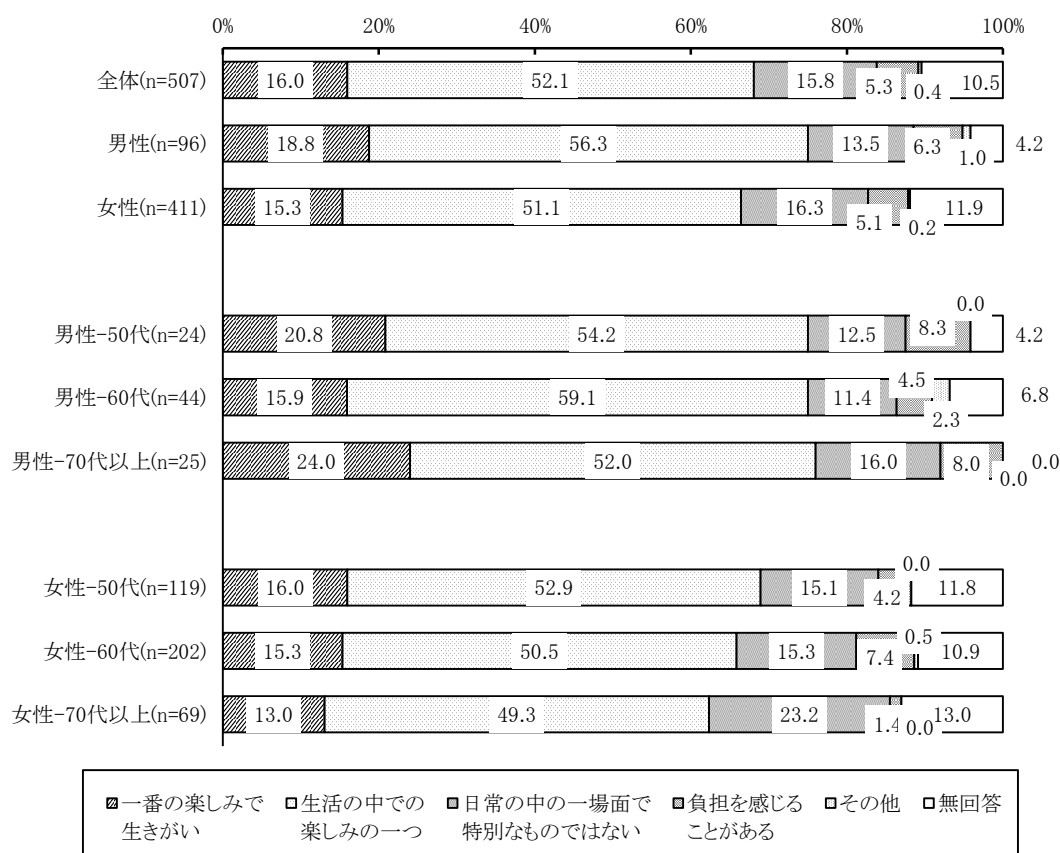
孫とふれあう機会があると回答した 507 名に、孫とふれあう時間への意識をたずねたところ、全体では「生活の中での楽しみの一つ」(52.1%) が最も回答割合が高く、次いで「一番の楽しみで生きがい」(16.0%) であり、約 7 割が孫とのふれあいを楽しみであると感じている(図表 3-4)。「負担を感じる」は 5.3% と少数であった。

性別にみると、男性の方が女性よりも「一番の楽しみで生きがい」と回答した人の割合も、「生活の中での楽しみの一つ」と回答した人の割合も高い。女性に比べて男性の方が孫とのふれあいを楽しみに思っている人の割合が高い。

性・年代別にみると、男性の 70 代以上で「一番の楽しみで生きがい」と回答した人が 24.0% であり、50 代、60 代よりも高い。男性の中には、仕事を引退した後の生活の楽しみを、孫とのふれあいに求める人も少なくないと想像される。

女性は年代が高くなるにつれて「一番の楽しみで生きがい」や「生活の中での楽しみの一つ」の回答割合が低下し、「日常の中での一場面で特別なものではない」の回答者の割合が上昇している。

図表 3-4 孫とふれあう時間への意識 (全体、性別、性・年代別)



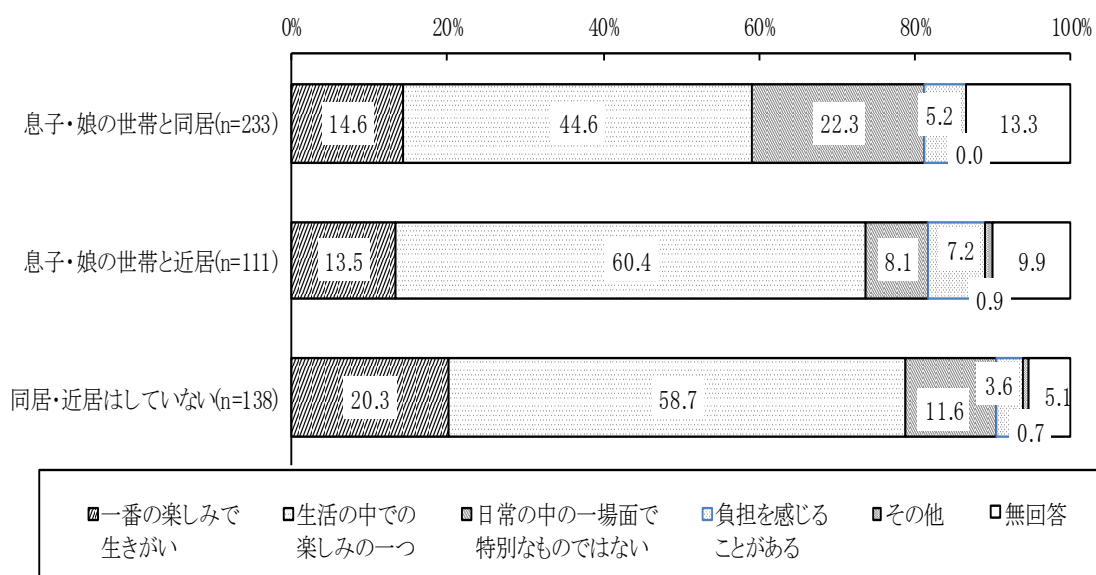
注：回答者は 18 歳未満の孫がいる人のうち、孫とふれあう機会がある人。年代別については 40 代以下を省略。

子との同居・近居の有無別にみると、「生活の中での楽しみの一つ」と回答した人の割合は息子や娘世帯と近居している人や同居・近居していない人では6割前後にのぼっているのに対し、同居している人は5割以下である。また「日常の中の一場面特別なものではない」への回答割合が、同居している人では2割以上を占めており、近居している人や同居・近居していない人よりも高い割合を示している（図表3-5）。同居していると、孫とのふれあいは特別なものではなく、日常的なものと認識している人が多いようであり、ふれあいを楽しみと感じている人は相対的に少ない。

息子や娘世帯と近居している人では「生活の中での楽しみの一つ」と回答した人が約6割を占めている。近居している人では孫に週に数回程度ふれあいの機会をもつ人が多いこととあわせて考えると、孫とのふれあいを日常生活の中での楽しみと意識している人の割合が高いようだ。

同居・近居はしていない人では「一番の楽しみで生きがい」に20.3%が回答しており、同居や近居している人の回答割合を上回っている。同居・近居はしていない人は、月に数日ないし年に数日しか孫とふれあうことがない人が多い。日常的にふれあうことができないからこそ、孫とのふれあう機会を一番の楽しみとしている人が多いことがうかがえる。

図表3-5 孫とふれあう時間への意識（子との同居・近居の有無別）



注: 回答者は18歳未満の孫がいる人のうち、孫とふれあう機会がある人。近居とは「直線距離で片道おおむね2km以内」。

サンプル数は限られているが、男女ごとに子との同居・近居の有無別にみると、息子や娘世帯と同居している人では、男性の方が「生活の中での楽しみの一つ」と回答している人が多く、女性の方が「日常の中の一場で特別なものではない」と回答している人が多い（図表3-6）。同居している人では、男性は孫とのふれあいを楽しみの一つとして思っているが、女性は特別なものではないと思っている人が多いようだ。息子や娘世帯と近居している人では、女性よりも男性の方が「負担を感じることもある」の回答割合が高い。

図表3-6 孫とふれあう時間への意識（性・子との同居・近居の有無別）

（単位：％）

		n	一番の楽しみで生きがい	生活の中で の楽しみの一 つ	日常の中 の一場で特 別なものでは ない	負担を感じる ことがある	その他	無回答
息子・娘の世帯と同居	男性	43	14.0	53.5	16.3	7.0	0.0	9.3
	女性	190	14.7	42.6	23.7	4.7	0.0	14.2
息子・娘の世帯と近居	男性	17	17.6	52.9	5.9	17.6	5.9	0.0
	女性	94	12.8	61.7	8.5	5.3	0.0	11.7
同居・近居はしていない	男性	31	25.8	61.3	12.9	0.0	0.0	0.0
	女性	107	18.7	57.9	11.2	4.7	0.9	6.5

注：回答者は18歳未満の孫がいる人のうち、孫とふれあう機会がある人。近居とは「直線距離で片道おおむね2km以内」。

(3) 孫とのふれあいの頻度への評価 (Q17)

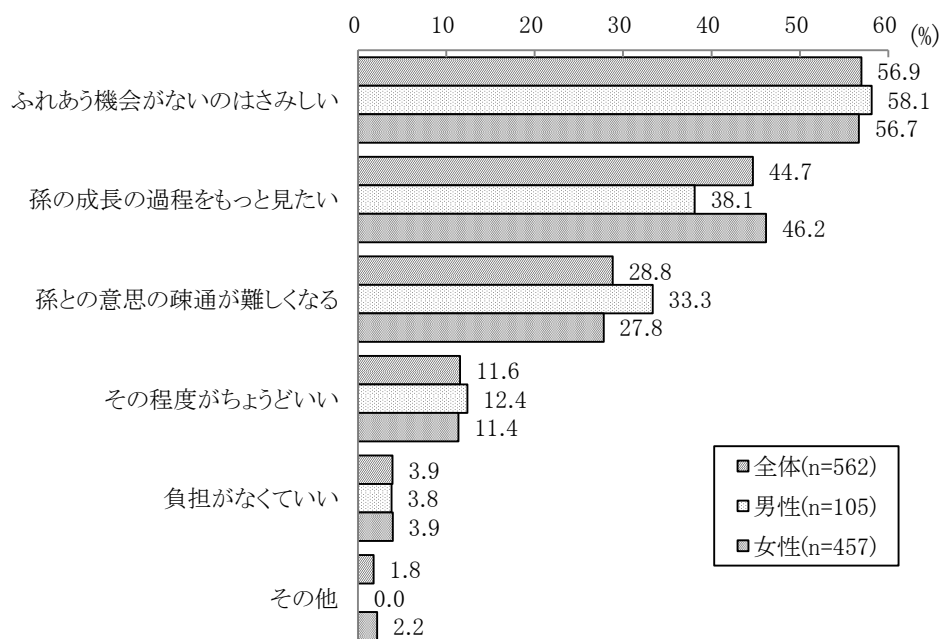
18歳未満の孫がいる562名に、孫とふれあう機会が年に数日しかない場合、どのように感じるかをたずねたところ、全体では「ふれあう機会が少ないのはさみしい」が最も多く56.9%を占めている(図表3-7)。

性別にみると、男女ともに「ふれあう機会が少ないのはさみしい」が最も多く、次いで「孫の成長の過程をもっと見たい」「孫との意思の疎通が難しくなる」が続いている。

子との同居・近居の有無別にみると、あまり大きな差はみられないが、同居・近居はしていない人では「その程度がちょうどいい」と回答した人が16.0%と最も高い(図表3-8)。同居・近居をしていない人でも52.7%が「ふれあう機会がないのはさみしい」と回答しているものの、その程度がちょうどいいと思っている人も2割弱の割合で存在している。

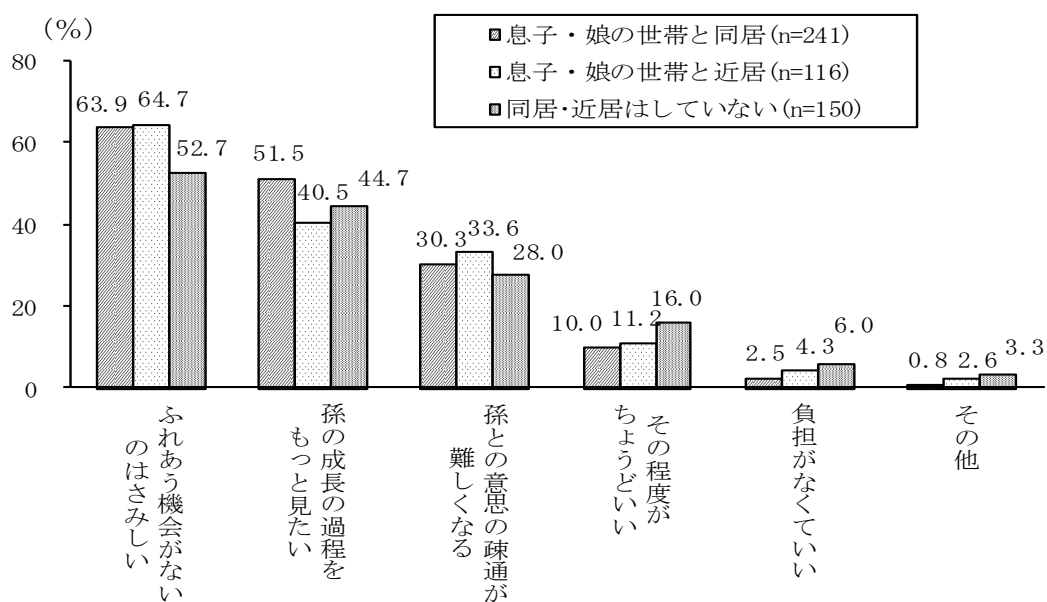
サンプル数は限られているが、男女ごとに子との同居・近居の有無別にみると、息子や娘と同居ないし近居をしている人では「孫との意思の疎通が難しくなる」の回答割合が女性よりも男性の方が高い(図表3-9)。

図表3-7 孫とのふれあいの頻度への評価(全体) <複数回答>



注：回答者は18歳未満の孫がいる人。

図表 3-8 孫とのふれあいの頻度への評価（子との同居・近居の有無別）＜複数回答＞



注：回答者は18歳未満の孫がいる人。近居とは「直線距離で片道おおむね2km以内」。

図表 3-9 孫とのふれあいの頻度への評価（性・子との同居・近居の有無別）

＜複数回答＞

（単位：％）

		n	ふれあう機会がないのはさみしい	孫の成長の過程をもっと見たい	孫との意思の疎通が難しくなる	その程度がちょうどいい	負担がなくていい	その他
息子・娘の世帯と同居	男性	45	60.0	46.7	37.8	11.1	4.4	0.0
	女性	196	64.8	52.6	28.6	9.7	2.0	1.0
息子・娘の世帯と近居	男性	18	72.2	27.8	44.4	11.1	5.6	0.0
	女性	98	63.3	42.9	31.6	11.2	4.1	3.1
同居・近居はしていない	男性	35	51.4	37.1	22.9	14.3	2.9	0.0
	女性	115	53.0	47.0	29.6	16.5	7.0	4.3

注：回答者は18歳未満の孫がいる人。近居とは「直線距離で片道おおむね2km以内」。

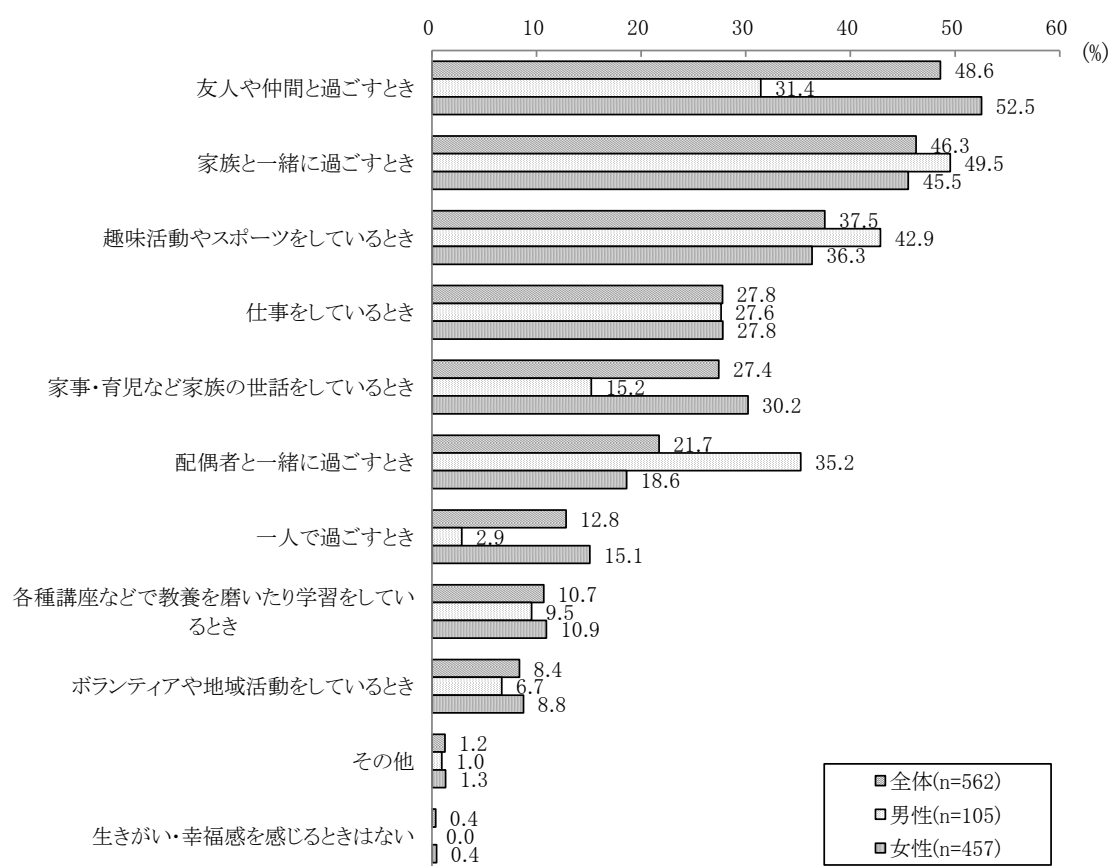
3-2. 生きがい・幸福を感じる時

(1) どのようなときに、生きがい・幸福を感じるか (Q18)

18歳未満の孫がいる562名に、どのようなときに生きがい・幸福を感じるかをたずねたところ、全体では「友人や仲間と過ごすとき」や「家族と一緒に過ごすとき」の回答割合が高い(図表3-10)。

性別にみると、男性は「家族と一緒に過ごすとき」(49.5%)、「趣味活動やスポーツをしているとき」(42.9%)が多く、女性は「友人や仲間と過ごすとき」(52.5%)が「家族と一緒に過ごすとき」(45.5%)を上回っている。

図表3-10 生きがい・幸福を感じる時 (全体、性別) <複数回答>



注：回答者は18歳未満の孫がいる人。

男女差が大きいものは、女性の方が大きく上回った項目は「友人や仲間と過ごすとき」(21.1ポイントの差)や「家事・育児など家族の世話をしているとき」(15.0ポイントの差)であり、男性の方が大きく上回った項目は「配偶者と一緒に過ごすとき」(16.6ポイントの差)である。男性は友人や仲間よりも配偶者と過ごすときのほうが幸福を感じる回数

答した人が多いが、女性は配偶者よりも友人や仲間と過ごすときの方が幸福を感じると回答した人が多い。

サンプル数は限られているが、子との同居・近居の有無別にみると、息子や娘の世帯と同居している人は「家族と一緒に過ごすとき」が最も回答割合が高い項目であるが、息子や娘世帯と近居している人や同居・近居はしていない人では「友人や仲間と過ごすとき」が最も回答割合が高い（図表3-11）。また、息子や娘の世帯と同居している人では「家事・育児など家族の世話をしているとき」の回答割合が3割以上であり、それ以外の人に比べて高い。同居している人では家族と一緒に過ごしたり、家族の世話をしたりすることに生きがいを感じている人が相対的に多いことがわかる。

この傾向は女性で特に顕著であり、息子や娘と同居している女性の「家事・育児など家族の世話をしているとき」の回答割合が約4割、「家族と一緒に過ごすとき」の回答割合が約6割を占めており、近居している女性や同居・近居をしていない女性よりも高い。

図表3-11 生きがい・幸福を感じる時（性・子との同居・近居の有無別）

<複数回答>

（単位：％）

		n	友人や仲間と過ごすとき	家族と一緒に過ごすとき	趣味活動やスポーツをしているとき	仕事をしているとき	家事・育児など家族の世話をしているとき	配偶者と一緒に過ごすとき	一人で過ごすとき	各種講座などで教養を磨いたり学習をしているとき	ボランティアや地域活動をしているとき	その他	生きがい・幸福を感じるときはない
息子・娘の世帯と同居	全体	241	53.9	60.6	36.9	29.5	34.9	22.0	11.2	8.7	6.6	0.4	0.8
	男性	45	28.9	57.8	42.2	35.6	15.6	37.8	2.2	8.9	2.2	0.0	0.0
	女性	196	59.7	61.2	35.7	28.1	39.3	18.4	13.3	8.7	7.7	0.5	1.0
息子・娘の世帯と近居	全体	116	56.0	44.8	42.2	31.9	22.4	25.0	16.4	13.8	12.1	2.6	0.0
	男性	18	38.9	50.0	66.7	22.2	16.7	44.4	5.6	16.7	16.7	0.0	0.0
	女性	98	59.2	43.9	37.8	33.7	23.5	21.4	18.4	13.3	11.2	3.1	0.0
同居・近居はしていない	全体	150	44.0	34.7	43.3	26.0	20.7	22.0	14.0	13.3	10.7	2.0	0.0
	男性	35	34.3	45.7	37.1	17.1	14.3	28.6	2.9	5.7	8.6	2.9	0.0
	女性	115	47.0	31.3	45.2	28.7	22.6	20.0	17.4	15.7	11.3	1.7	0.0

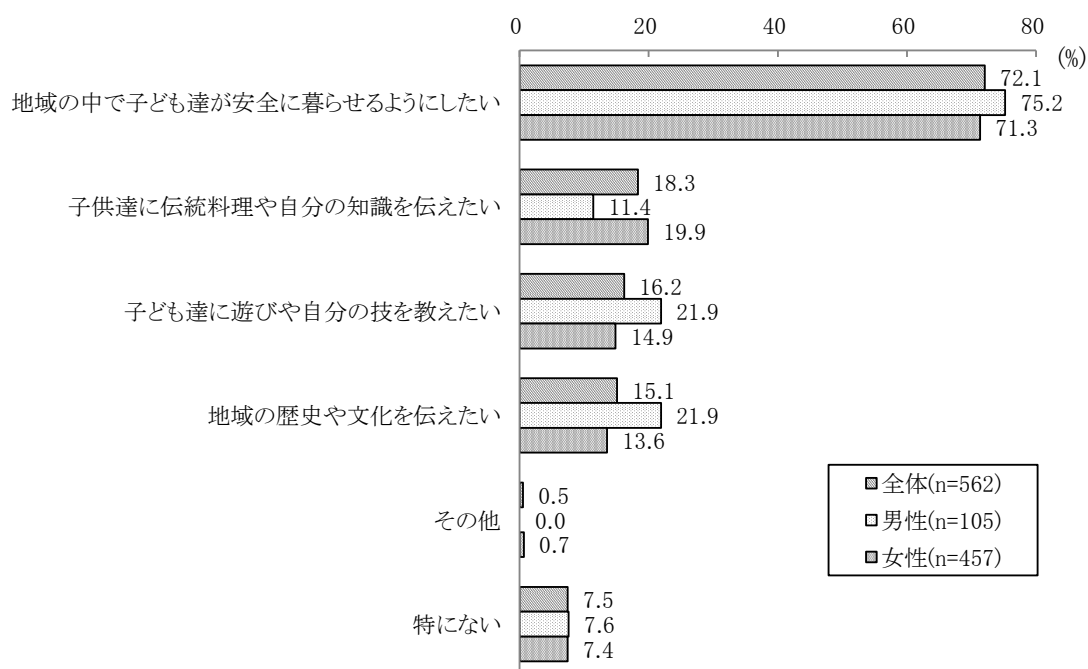
注：回答者は18歳未満の孫がいる人。近居とは「直線距離で片道おおむね2km以内」。

(2) 孫を含めた地域の子ども達にしてあげたいこと (Q19)

続いて、18歳未満の孫がいる人に、孫を含めた地域の子ども達にしてあげたいことをたずねたところ、全体では「地域の中で子ども達が安全に暮らせるようにしたい」が72.1%を占めている(図表3-12)。

性別にみると、男女ともに「地域の中で子ども達が安全に暮らせるようにしたい」が7割以上と最も多い。2位は男性は「子ども達に遊びや自分の技を教えたい」と「地域の歴史や文化を伝えたい」であり、女性は「子供達に伝統料理や自分の知識を伝えたい」となっている。

図表3-12 孫を含めた地域の子ども達にしてあげたいこと (全体、性別) <複数回答>

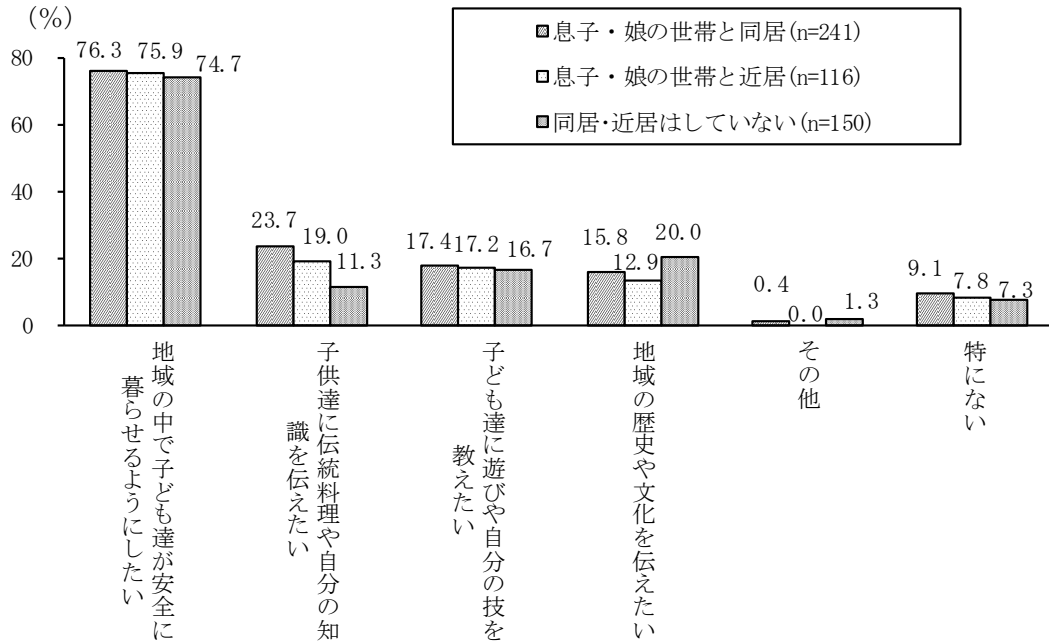


注：回答者は18歳未満の孫がいる人。

子との同居・近居の有無別にみると、いずれも「地域の中で子ども達が安全に暮らせるようにしたい」が7割以上を占めており、子との同居・近居の有無別では大きな差がみられない(図表3-13)。

サンプル数は限られているが、男女ごとに子との同居・近居の有無別にみると、同居ないし近居している女性は「子供達に伝統料理や自分の知識を伝えたい」が2番目に回答割合が多い項目であるが、同居・近居はしていない女性の2番目に回答割合が多い項目は「地域の歴史や文化を伝えたい」となっている(図表3-14)。

図表 3-13 孫を含めた地域の子ども達にしてあげたいこと（子との同居・近居の有無別）
 <複数回答>



注：回答者は18歳未満の孫がいる人。近居とは「直線距離で片道おおむね2km以内」。

図表 3-14 孫を含めた地域の子ども達にしてあげたいこと
 （性・子との同居・近居の有無別） <複数回答>

（単位：％）

		n	地域の中で子ども達が安全に暮らせるようにしたい	子供達に伝統料理や自分の知識を伝えたい	子ども達に遊びや自分の技を教えたい	地域の歴史や文化を伝えたい	その他	特にない
息子・娘の世帯と同居	男性	45	80.0	13.3	17.8	20.0	0.0	8.9
	女性	196	75.5	26.0	17.3	14.8	0.5	9.2
息子・娘の世帯と近居	男性	18	83.3	11.1	16.7	33.3	0.0	5.6
	女性	98	74.5	20.4	17.3	9.2	0.0	8.2
同居・近居はしていない	男性	35	68.6	8.6	28.6	20.0	0.0	8.6
	女性	115	76.5	12.2	13.0	20.0	1.7	7.0

注：回答者は18歳未満の孫がいる人。近居とは「直線距離で片道おおむね2km以内」。

3-3. まとめ

前節では、息子や娘の世帯にとっては、親との同居・近居という住まい方が、家事支援などを受けられるため、女性の継続就労を後押ししていることがうかがえた。他方、親世代が息子や娘の世帯と同居・近居をすることでどのような効果が得られるのであろうか。

同居・近居の有無にかかわらず、孫とのふれあいが生活の中での楽しみの一つと答えている人が多く、ふれあう機会がないのはさみしいと多くの人が回答しているが、同居している人では、孫とふれあう時間は「日常の中の一場面特別なものではない」との意識も目立っている。

生きがいや幸福を感じるタイミングについてたずねた結果をみると、息子や娘世帯と同居している人は、「家族と一緒に過ごすとき」と答えた人が最も多いが、近居している人や同居・近居していない人では「友人や仲間と過ごすとき」と答えた人が最も多い。

また、地域の子ども達にしてあげたいことをたずねた結果では、「地域の中で子ども達が安全に暮らせるようにしたい」と考えている人が、同居・近居を問わず多い。

同居・近居の有無にかかわらず、孫の健やかな成長を願い、孫とのふれあいを大切に思う気持ちに変わりはないながらも、「孫とふれあう時間への意識」や「生きがいや幸福を感じる時」には、同居している人とそうでない人とでは若干ながら違いがみられた。

<参考文献>

- ・厚生労働省（2016）『平成 28 年版 厚生労働白書』.
- ・第一生命経済研究所編（2015）『ライフデザイン白書 2015 年』ぎょうせい.
- ・内閣府（2014）『平成 25 年度 家族と地域における子育てに関する意識調査』報告書 .
- ・的場康子（2016）「三世代で暮らしている人の地域・親子関係」『Life Design Focus』
2016.2.23 (<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2015/fc1602.pdf>).

